



みらいづくり大学 青葉キャンパス 「あおば魅力発信講座」 報告書



《 目 次 》

2	概要、カリキュラム	7	第5・6講座 グループ作業
3	第1講座 入学式、導入	8	第7講座 発表、卒業式
4	第2講座 座学	9	卒業作品 コラム項目
5	第3講座 座学	10	卒業作品 講師コラム
6	第4講座 見学、体験	11	卒業作品 講師コラム

みらいづくり大学青葉キャンパスは、担い手の育成を目指し、

- ①青葉区のことをもっと知って発信したい
- ②自治会活動や地域の活動をもっと知りたい
- ③いろいろな人たちと触れ合い、仲間をつくりたい

と考えている人たちの「学びと成長の場」です。



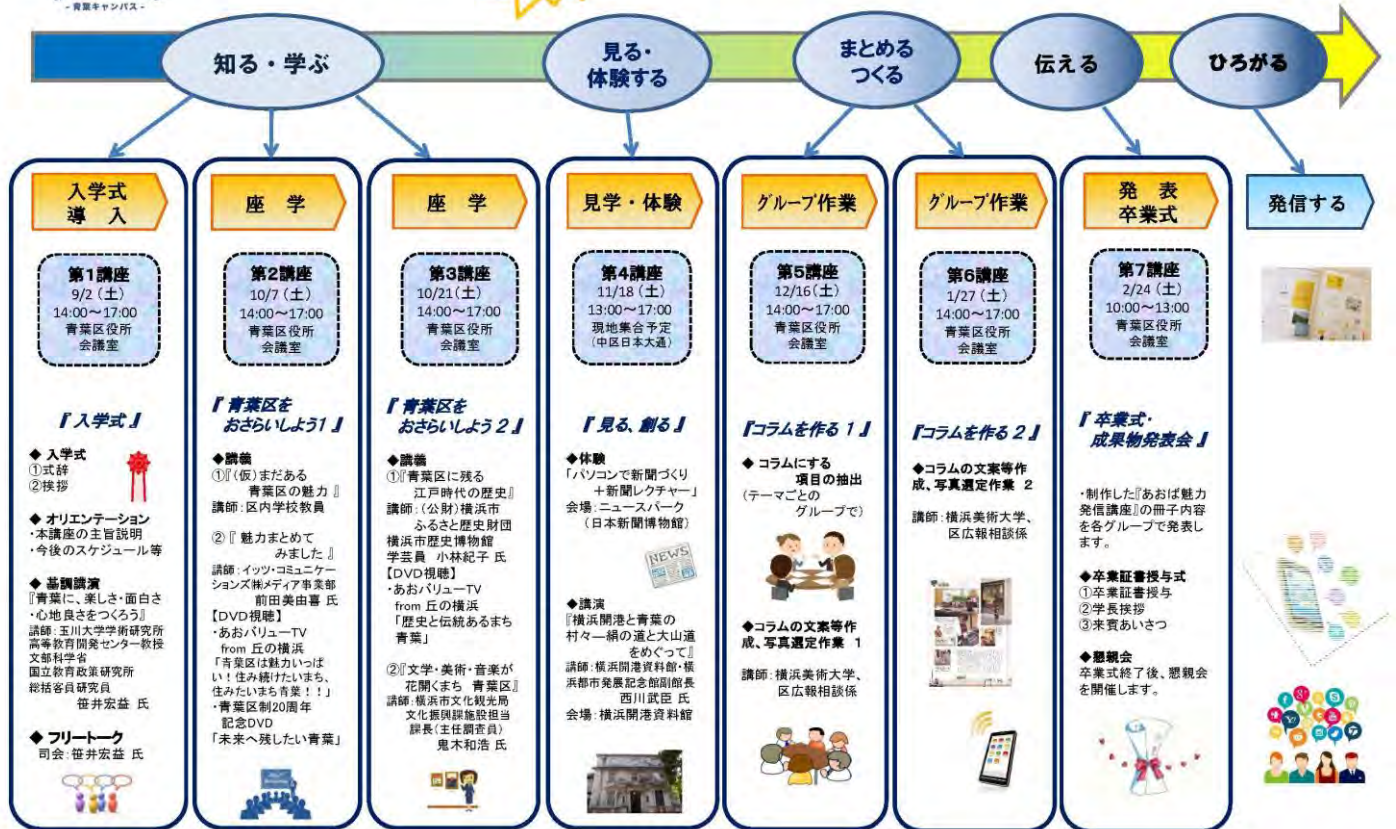
みらいづくり大学
- 青葉キャンパス -

29年度は

自ら住む青葉区のことを『知り』
その魅力や特徴を 『伝え』
その作業・成果を通して『つながり』
新たな活動や取組が 『ひろがる』ことを目指します。



あおば魅力 発信 講座カリキュラム



学長：松澤 孝郎 氏

○青葉区連合自治会会長
○青葉区荏田西在住
「自分たちのまちは、自分たちで守る」の信念のもと、地域活動に参加すること40年。青葉区の連合自治会会長として地域のさまざまな課題解決に日々奔走しています。



アドバイザー：笹井 宏益 氏

○玉川大学 学術研究所 高等教育開発センター 教授
文部科学省 国立教育政策研究所 総括客員研究員 ○東京都在住
地域づくりのための社会教育を中心に、幅広く生涯学習の研究をしています。特に近年は、ボランティアやNPO、若者や高齢者の社会参加に焦点を当て、市内各地をめぐって調査研究活動に取り組んでいます。



コーディネーター：竹本 靖代 氏

○あおば学校支援ネットワーク代表 ○青葉区奈良在住
ボランティアと学校をつなぐコーディネーターのネットワークとして子どもの視点に立ったよりよい学校教育への支援活動をしています。また、子どもが主体の世代間交流事業にも取り組んでいます。



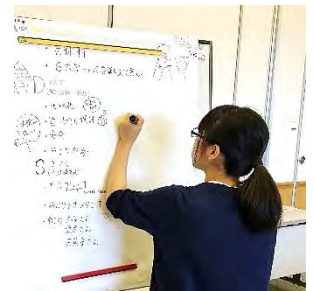
第1講座 入学式・導入

9月2日(土) 14:00~17:00 青葉区役所4階会議室



みらいづくり大学青葉キャンパスが開校して3年目を迎えます。入学式を行い、「あおば魅力発信講座」が開講しました。

グラフィックレコーディングの手法による記録を横浜美術大学の学生が交代で務めます。講義内容がより分かりやすくなり、講座終了後に読み返したり写真に収めたりする受講生の姿が毎回見られます。



フリートーク

進行: 玉川大学 学術研究所 高等教育開発センター 教授

文部科学省 国立教育政策研究所 総括客員研究員 笹井 宏益 氏

あらかじめ分けられた5つのグループで、青葉区の魅力について情報交換をしました。今年度は27年度・28年度の受講生も参加し、OBが活発な意見を出してリードする場面も見られました。講座を通して青葉区の魅力を分野別に抽出し、それらを紹介するコラム集を制作する計画です。

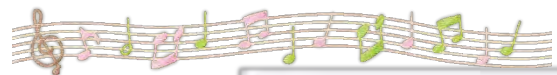
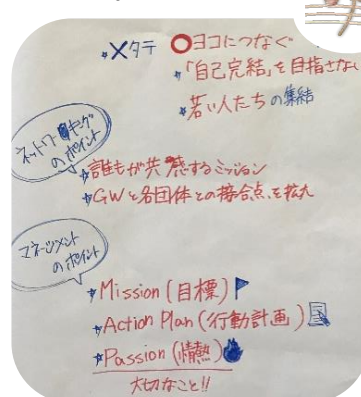


基調講演「青葉に、楽しさ・面白さ・心地良さをつくろう」

講師: 玉川大学 学術研究所 高等教育開発センター 教授

文部科学省 国立教育政策研究所 総括客員研究員 笹井 宏益 氏

当講座のアドバイザーでもある笹井宏益氏による基調講演では、住民・企業・行政のパートナーシップを仲介することを通して身近な環境改善に取り組むNPO法人「グラウンドワーク三島」を例に挙げ、タテの地域社会をヨコにつなぐネットワークの意義やネットワーキングのポイント、マネジメントのポイントなどについて講義をいただきました。



受講生の感想

(アンケートより)

*「ヨコのつながり」は、今後の活動をつないでゆくうえで、とても大切な事だと思います。「活動グループ同志のつながり」「行政のヨコのつながり」も同様です。「タテ」は今まで以上にしっかり、これに加えて「ヨコ」をしっかりと!

* ネットワーキングポイントの再確認。目標→行動計画→情熱の再確認をすることができた。現在の活動に対する反省と方向性を学ぶことが出来た。

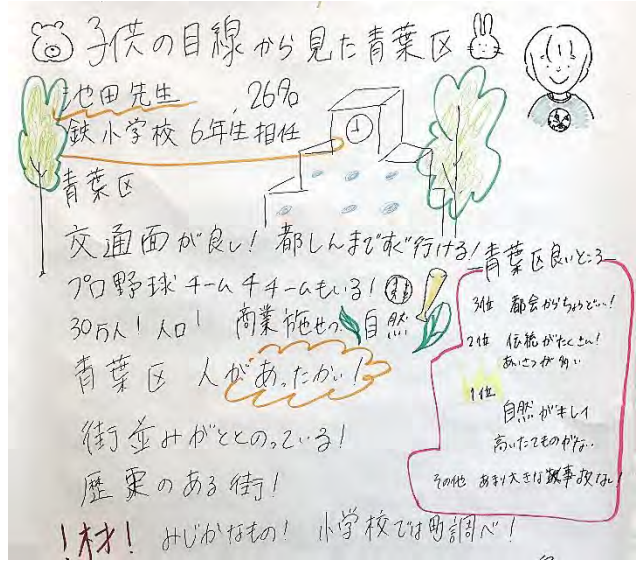
第2講座 座学・作業

10月7日(土) 14:00~17:00 青葉区役所4階会議室

講義「子供の目線から見た青葉区」

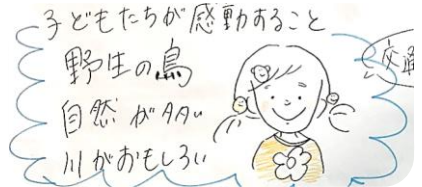
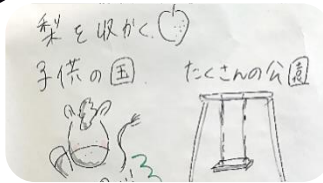
講師：横浜市立鉄小学校 教諭 池田 翼 氏

区内の小学校で教鞭を取る池田先生に、学校では子どもたちが地域のどのような点に興味関心を持ち学んでいるのかを伺いました。写真で手にしている焼肉のたれは、出荷できない規格外のはまなしを活用して製品化された商品とのことで、子どもたちは社会のいろいろなことを地域の事例から学んでいました。



DVD視聴【未来へ残したい青葉】

青葉区制20周年を記念して、区民から募集した写真や動画を使って制作した「未来へ残したい青葉」のDVDを視聴し、視覚的にも青葉区の魅力やそのイメージを共有しました。



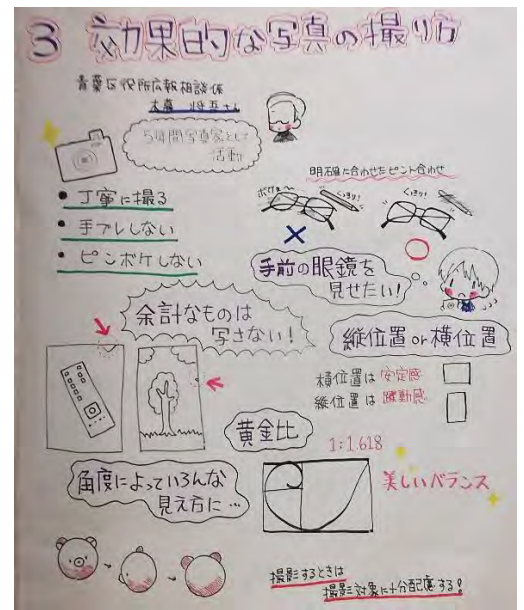
講義「効果的な写真の撮り方」

講師：区政推進課 広報相談係 木暮 将吾

前職で5年間写真家として活動された木暮さんに、コラムに掲載する写真を効果的に撮る方法を教えていただきました。また、撮影許可を取ることや撮影対象へ配慮することについての注意がありました。



これから受講生は「プロの写真」となる1枚を目指して区内を回ります。



講義「取材を通して考える青葉区の魅力について」

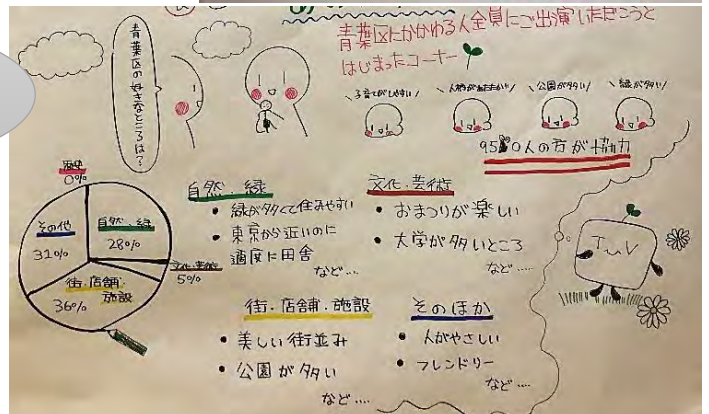
講師：イツツ・コミュニケーションズ株式会社メディア事業部

アシスタントマネージャー 前田 美由喜 氏

青葉区に関わる人全員にご出演いただこうと始まったコーナー「あおばノート」で、2016年に収録した257名のインタビュー結果を分析、青葉区の魅力を紹介していただきました。

講座終了後は、会場内でインタビューをして、多くの仲間が出演者に加わりました!

青葉区の好きなところは?



第3講座 座学・作業

10月21日(土) 14:00~17:00 青葉区役所3階会議室

DVD視聴【歴史と伝統あるまち青葉】(あおバリューTV)

江戸時代、大山詣りの道として賑わいを誇った「大山街道」、その中でも区内唯一の宿場として栄えた「荏田宿」を中心に紹介された「歴史と伝統あるまち青葉」の回を視聴しました。本日の講師のお一人である小林紀子さんが出演し解説されています。



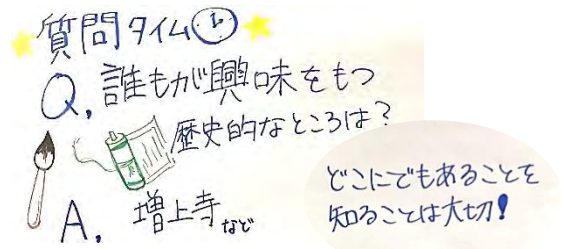
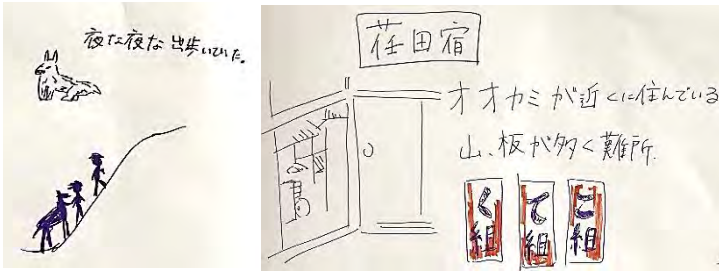
講義「青葉区に残る江戸時代の歴史」

講師：公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
横浜市歴史博物館 学芸員 小林 紀子 氏



伝統と歴史あるまち青葉

DVDでも視聴した大山詣りの道として盛んに利用された矢倉沢往還や荏田宿の様子、旅籠に宿泊する際に入口の壁などに掲げた「まねき看板」(現存する42枚の荏田宿まねき看板は市の有形民俗文化財に指定)、増上寺領があったことなどについてご紹介いただき、横浜の開港とはまた違った趣の歴史に耳を傾けました。

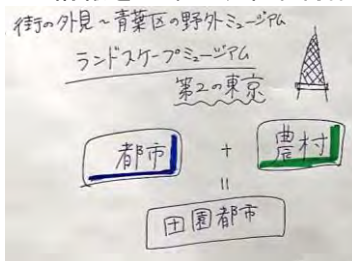


講義「文学・美術・音楽が花開くまち 青葉区」

講師：横浜市文化観光局 文化振興課 施設担当課長(主任調査員) 鬼木 和浩 氏

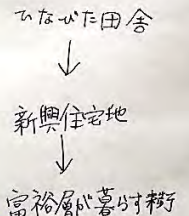
文化的な観点で街の外見と内面の魅力についてお話しいただきました。紹介された市ヶ尾彫刻のプロムナード、青葉台駅前モニュメント「風見の鶏」、桜台ビレジ、こども国の建造物など、あらためて情報を収集し、卒業制作のコラム集で取り上げた内容も多くあります。

執筆年代が異なる3つの小説を、青葉区3大小説と表現し、青葉区の移り変わりを体験させてくれるタイムカプセルにたとえられるなど、楽しく拝聴しました。



青葉区3大小説

- ・佐藤春夫
『痛める薔薇』
『田園の憂鬱』
1919年『田園の憂鬱』式に『痛める薔薇』(定本)
- ・市川崑
1962年『犬と麻子』
- ・村上龍
1985年『テニスボーイの憂鬱』



グループ別話し合い

テーマ別に分かれた5つのグループで、コラムに取り上げる内容について話し合いました。

- 歴史
- 自然・緑
- 文化・芸術
- 街・店舗・施設
- 青葉不思議発見



第4講座 見学・体験

11月18日(土) 13:00~17:00 ニュースパーク・横浜開港資料館

今年度の見学は青葉区を出て、中区にあるニュースパークと開港記念資料館へ足を運びました。

【ニュースパーク(日本新聞博物館)】新聞レクチャー・マイ新聞づくり

新聞が刷られる様子をプロジェクションマッピングで再現した1階のシンボルモニュメントのオフセット回転機を見ながら入場します。元読売新聞記者の根本さんから記事の書き方について教わり、さっそく学んだことを生かして新聞づくりに挑戦。1人1人異なる個性あふれる新聞が出来上がりました。

終了後は常設展示室の見学を楽しみました。タブレット型端末を活用した取材体験ゲーム「横浜タイムトラベル」など、楽しみながら学べる工夫がいっぱいの施設でしたが、時間の都合で展示室は解説を聞きながら見学のみ行いました。

●記事 書き方まとめ

- ・短く言い切る=書き出しから句点(マル)までの字数を少なく
- ・具体的に書く(5W1H・五感・データ)
- ・結論・要点を先に書く



●見出し 書き方のポイント

- ・タイトルやキャッチコピーではありません
- ①記事の中から要点を取り出す
- ②具体的に表現する
秋の大運動会⇒運動会は白組が優勝
鎌倉遠足のこと⇒大仏様は大きかった
- ③大きさを先に決める
- ④記事ごとに付ける



【横浜開港資料館】

講演：「横浜開港場と青葉の村々—絹の道と大山道をめぐって」

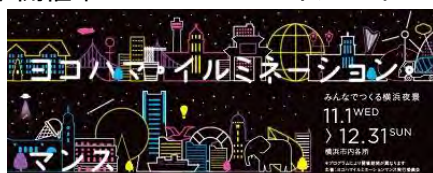
講師：横浜開港資料館 副館長 西川 武臣 氏



横浜開港の歴史について第一人者である西川副館長より、横浜開港時の青葉の村々の様子や遠く離れた港との関係などについて伺いました。

講演後は、常設展示および企画展の『開港場横浜の原風景—350年の歴史を探る—』を見学しました。関東大震災で焼けた後で再び芽吹いた「たまぐす」の木が中庭にあり、1854年ペリーが横浜村に上陸した様子の絵に焼ける前のこの木が描かれているとのことでした。

終了後は現地で解散し、日本大通のイチョウ並木や数々の歴史的建造物、開催中の「ヨコハマ・イルミネーション・マンス2017」を各自楽しみながら帰途につきました。



第5講座 グループ作業

12月16日(土) 14:00~17:00 青葉区役所4階会議室

「コラムを作る」

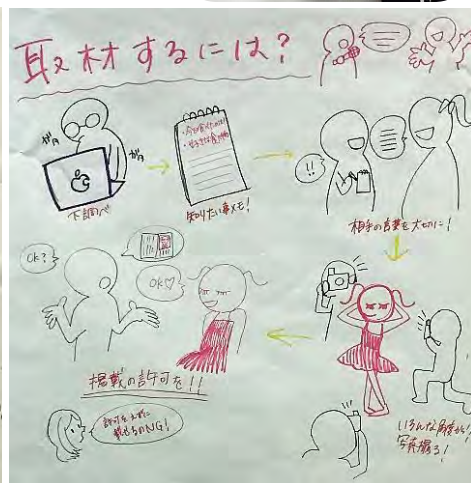
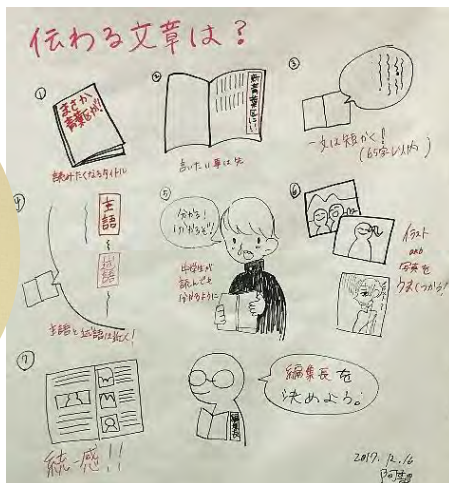
講師：青葉区 区政推進課 広報相談係 川口 美知与

「あおバリューBOOK～青葉区を知る30の魅力～(仮称)の作り方について」

講師：横浜美術大学 ビジュアルデザイン研究室 准教授 リースナー 佳子 氏



広報よこはま青葉区版を制作している川口さんにコラムを作る手順や注意点について聞きました。企画、取材、文章、校正の順に進めます。続いて、リースナー先生からレイアウトの方法を聞き、グループ別に作業を開始しました。



コラム制作作業



第6講座 グループ作業

1月27日(土) 14:00~17:00 青葉区役所4階会議室

制作にあたって

講師：横浜美術大学ビジュアルデザイン研究室准教授 リースナー 佳子 氏

助手 宮川 知子 氏

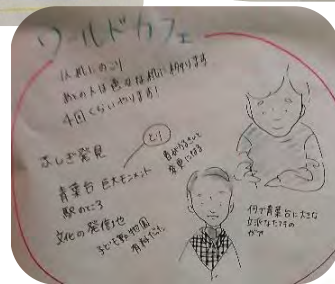
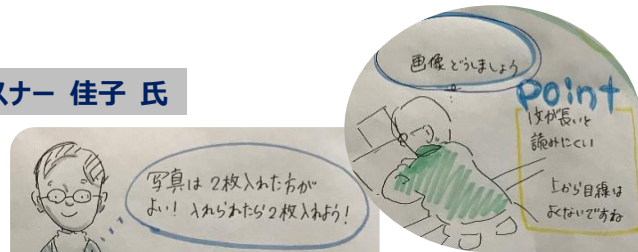
コラム制作作業・まとめ

今回は制作作業を進め完了させました。どのグループもより見やすく、興味を引くように工夫を凝らしていて、冊子の出来上がりが楽しみです。



終了後、ワールドカフェで他のグループの内容も聞いて情報を共有したり、発表のための準備をしました。

担当係長による「データから見える青葉区」の紹介で講座を締めくくり、次回はいよいよ卒業制作発表と卒業式です。



第7講座 発表・卒業式

2月24日(土) 10:00~13:00 青葉区役所4階会議室

9月から始まった講座が修了の時を迎え、卒業制作としてまとめたコラムをもとに成果を発表しました。引き続き卒業証書が授与され、卒業後の交流会では講座をふりかえりながら楽しく談笑する輪でいっぱいでした。



区の魅力 学んで発信

住民と区職員が冊子制作

今回完成した「あおハリュウ Book」



地域活性化と課題の解決を見据え、これからの担い手となる人材の育成を目指して15年度から始まった制度。区と「あおば学校支援ネットワーク」が主催し、学長は区連合自治会長会の松澤孝郎会長が務めている。今年度は連合自治会・町内会から推薦を受けた区民27人と区職員が参加。コーディネート役に同ネットワークの竹本靖代さん、アドバイザーに玉川大学教授の笹井宏益さんを招き、9月

「あおハリュウ Book」の配布が始まっている。青葉区民と区職員がともに地域づくりを学ぶ講座「みらいづくり大学」。2017年度方リキニラムが2月末に修了し、卒業制作として区内の魅力を取材してまとめた冊子「あおハリュウ Book」の配布が始まっている。

で完成した「あおハリュウ Book」は、区内を調査し「青葉区を知る31の魅力」として1冊にまとめている。でき上がった冊子は14ページで、デザインは横浜美術大学が協力。現在、区内公共施設などで無料配布している。各グループが調べた内容を記載しており、遺跡や文化財など歴史をひも解くページや

「自身も学びに」今回、初めてみらいづくり大学に参加したという山口生夫さん(73・玲子さん(76)夫妻、生夫さんは「街・店舗・施設」グループ、玲子さんは「文化・芸術」グループで編集作業を進めてきた。2人とも青葉区に35年にわたって居住していると話すが、「講座を通じて」初めて知ったことが多かったと口を揃える。生夫さんは「自分としても学びになった。新しい住民にも、長く住んでいる人にも又の魅力伝えていきたい」と話していた。

公園など豊かな自然を紹介している。また、区内にある6大学や建築コンクールで受賞歴もある「桜台ビルジ」、地元産野菜を販売する直売所など区内各所の魅力を伝えている。そのほか、「窪田」と「江田」に表が分かれている理由など、区内にあるさまざまな「ふしぎ」に答えるコーナーも用意している。

あおば魅力発信講座アドバイザー 玉川大学 学術研究所 高等教育開発センター 教授 文部科学省 国立教育政策研究所 総括客員研究員 笹井 宏益

平成27年度から始まった「みらいづくり大学青葉キャンパス」は、今年度で3回目を迎えた。一回目は「あおば魅力発見講座」、二回目は「あおば花と緑の魅力発見講座」、そして今回は「あおば魅力発信講座」と、そのつどテーマを設けて実施されてきた。

今年度は、魅力の「発信」に着目して、「知る・学ぶ」「見る・体験する」「まとめる・つくる」「伝える」といったキーワードで代表される活動をプログラムの中に盛り込み、座学、フィールドワーク、グループワークといった多様な手法をとおして、魅力「発信」のあり方についての学習が展開された。

考えてみると、魅力の「発信」には2つの条件が必要である。一番目は、発信する情報の中身の問題であり、2番目は、情報の発信の仕方の問題である。

情報が地域の人たちに知られ理解されるためには、そのコンテンツ(内容)がそれを受信する人たちに「楽しさ」や「面白さ」あるいは「発見」や「気づき」を与えるものであることが重要である。「つまらない」情報では、そもそも発信する意味もないし、人から人へと伝わってもいけない。

また併せて、相手に着実に伝わるように発信のツールやメディアを取捨選択することも必要である。最も伝わってほしい人たちにどのように届けるのか。その届けたい人たちがキャッチしやすい方法を探ることが望まれているのである。

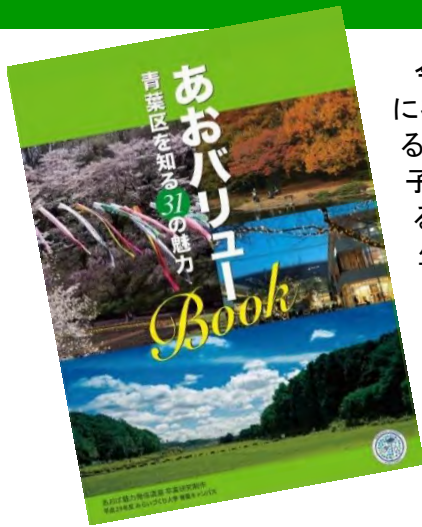
今回の講座の最後には、新鮮で、充実した、そして美しいコンテンツが創られており、それが冊子化されて、メディアとしても、記録性や芸術性を備えた優れたものが産まれた。素晴らしいことである。

受講者の皆さんをはじめこうした活動に関わってくれたすべての方々に対して、心からの敬意と感謝を表すものである。



タウンニュース青葉区版2018年3月8日号に記事が掲載されました。

卒業制作 あおバリューBook



今年度は魅力を発信する方法として、コラム集を制作しました。長年青葉区に在住している受講生が初めて知ったというような情報も多く、読み応えのある冊子は区内各所で手にされた方々が興味深く読んでくださっています。冊子の名称は、青葉区内の出来事や季節ごとの風景など青葉区の魅力を紹介する広報テレビ番組の「あおバリューTV」や、区内のイベント情報や普段の生活に欠かせない情報など内容盛りだくさんの広報ラジオ番組「あおバリューRadio」にちなんで、「あおバリューBook」と名付けました。

青葉区の魅力を5つのテーマに沿って受講生のみなさんがまとめたコラムです。(当ページはタイトルのみ掲載。)また、次のページは講師による青葉区の歴史や文化についての寄稿です。ぜひ、現物を手に取って魅力あふれる青葉区の情報や不思議をご一読ください。

こんなに古いあおばの昔
時代を超えて変わらぬメッセージ

りもとく
歴史

- ・長者原遺跡と都筑郡家(郡衙)ものがたり
- ・文化財がたくさん! 養老山真福寺
- ・市ヶ尾地藏堂と双盤念仏講(十夜講)
- ・稲ヶ原遺跡の上にさつきが丘小学校がある!
- ・曹洞宗大峰山松岳院
- ・青葉百年・一つの流れ

自然と調和する青葉区に暮らす
緑の恵みを感じる風景

いこう
自然
緑

- ・春の訪れを感じさせる青葉区の「桃源郷」
- ・奈良の自然を残した里山と芝生の公園
- ・「この水辺」がもたらすもの
- ・住宅街にある憩いの空間
- ・里山の風景が残っている寺家ふるさと村

伝統と現代が交錯する
芸術文化のまち

めでも
文化
芸術

- ・青葉6大学
- ・桜台ビレッジ
- ・獅子舞
- ・音楽の花咲くフィリアホール
- ・「おしゃもじさま」と「廻り地藏」
- ・いいもの見つけた!! 入れ子の陶器
- ・山内地区センターまつり



●グループ(きづく)

横浜 青葉
ふしぎ発見!

何気なく暮している「あおばの街」。じっくり観察するといくつも「ふしぎ」が見えてきます。

- ・「えだ」は「江田」、それとも「荏田」?
- ・青葉台駅前に立つ巨大モニュメント! なに?
- ・寺家ふるさと村と横浜美術大学は、芸術の発信基地だ!
- ・有名な建築家の知られざる建造物
- ・満願寺は芝増上寺の裏鬼門に位置していた!
- ・まねき看板は歴史散歩の一里塚

おいしいものを食べて
スローライフを楽しもう

くらす
街・店舗
施設

- ・モノと心のハーモニ
- ・地産地消あおばの食材・無人の野菜直売所
- ・美味しいもので心も豊かに
- ・人々の心を潤すけやきの並木
- ・いつまでも残したい農園風景





『生麦事件図』チャールズ・ワグマン画、フェリーチェ・ペアト撮影

横浜市歴史博物館所蔵

地元の知られざる歴史を 探る 歴史的イベントにまつわる出来事とは？

青葉区の村々と生麦事件

文久二年（一八六二）に起こった生麦事件は、歴史上有名な出来事だと思えます。実はこの事件、当時の青葉区の村々にも影響をあたえていたのです。

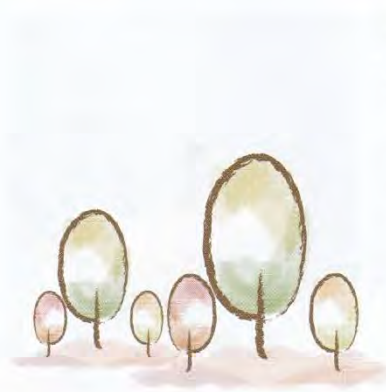
翌文久三年の早春、イギリスは賠償を請求すべく、軍艦を横浜沖に集結させます。幕府は開戦も想定し、その危機を触書で知らせ、江戸や横浜の海沿いの人々は、家財や家族を避難させました。

それは、徳川将軍家を祀る増上寺も例外ではなく、当時増上寺領だった区域の石川村は、増上寺の荷物の避難先となりました。さらに石川村はじめ増上寺領の村々には、有事の際に増上寺に駆けつける人足が課せられました。人足たちは有事に備え、中目黒村（増上寺領、目黒区）に交代で詰めました。

さらに同年、東海道を、矢倉沢往還から厚木街道を経て平塚宿に至るルートに変更しようとした「東

海道付け替え計画」も、生麦事件の影響によるものでした。荏田宿では調査の役人の通行や荷物運搬などで、人足を連日負担したことが研究で明らかになっています。

こうした出来事は、地元に残された資料が伝えてくれます。有名な事件の裏側で、自分の住む土地ではどんな人々が生き、何が起こっていたのか。教科書には記されない、まさに、その地元にはかない歴史だといえます。こうした地元の知られざる歴史を掘り起こすことも、歴史を学ぶ楽しみの一つだといえます。

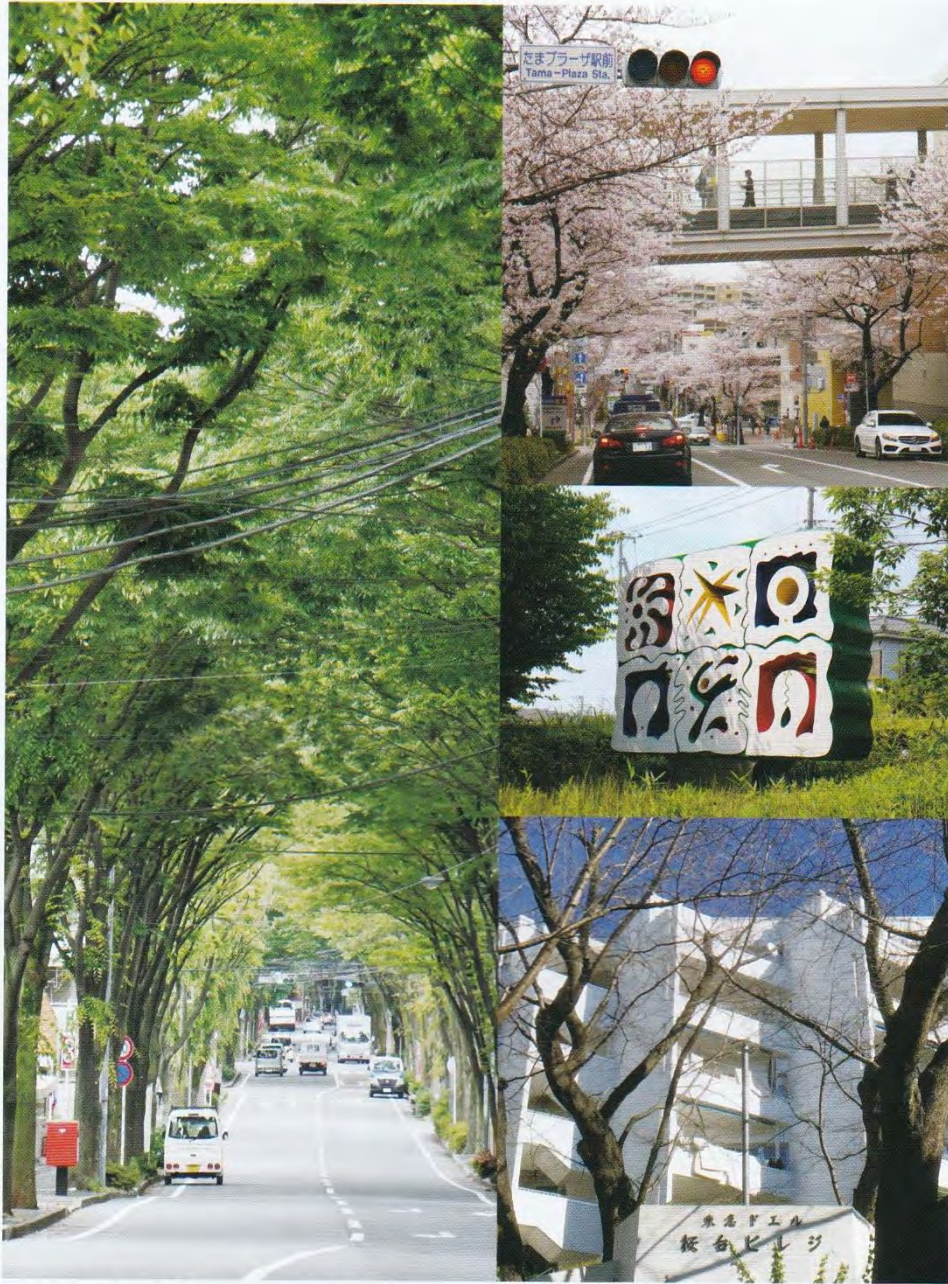


小林 紀子

横浜市歴史博物館
公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団
学芸員

卒業制作 あおバリューBook

講師寄稿ページ



歴史の変遷を経て、豊かな緑や文化・芸術に触れ合える「丘の横浜」青葉区

都市と自然が調和する青葉区

「田園都市」百年が育んだ文化

百年の田園都市文化

実業家渋沢栄一が田園都市株式会社を創設したのが一九一八年、作家の佐藤春夫が小説『田園の憂鬱』を最初に発表したのも同じく一九一八年、以来ちよつと百年が経ちました。この間、青葉区では、都市と農村が互いを必要とするように支え合い、過去の歴史や豊かな自然環境と共存しながら新しい創造活動が積み重ねていきます。街のダイナミックな変遷を経験しながら、個性的な「田園都市文化」が醸成されてきたのです。

日本画家の中島清之や彫刻家のイサム・ノグチ、建築家の丹下健三、作家の阿川弘之、村上龍らによって、この街を舞台とした数多くの優れた作品が生み出されました。また多くの区民の皆さんによる活発な文化活動も展開されてきました。この百年間の作品や活動は、青葉区の「田園都市文化」を豊かに花開かせてくれるとともに、この街に対する愛着も深めてくれるのです。



鬼木 和浩
横浜市文化観光局
文化芸術創造都市推進部文化振興課
施設担当課長 主任調査員